

「水田活用の直接支払交付金」の見直しの撤回を求める請願”全会一致で採択

民報

おうしゅう

読者版

発行
赤旗奥州出張所
水沢字久田 62
Tel 24-2021
Fax 24-2049

奥州市議会6月定例会は6月22日最終日を迎え、追加提案された補正予算案等を可決して終了しました。

日本共産党議員団は、6月14日、当初提案されていた一般会計補正予算案(第3号)の給食センターに関する予算の削除を求め修正動議を提出しました。最終日は、2件の請願の紹介議員になつていましたがいずれも採択されませんでした。先週号に続き一般質問の概要と請願採択・修正動議の経過について紹介いたします。

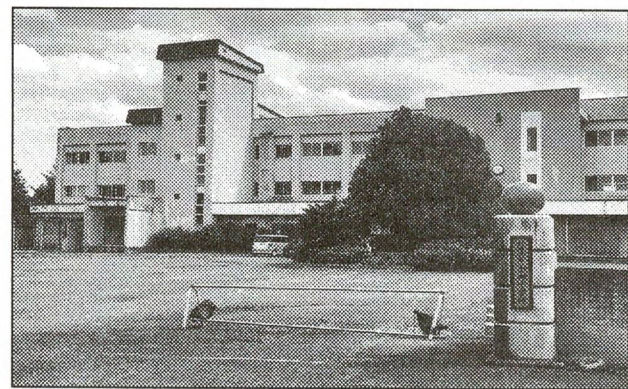
水田活用交付金の減額は撤回を！



1 番草をラップロールにした水田

50万円、令和4～9年度まで総額で約17億3千795万円の減額(奥州市試算)が見込まれ、このままでは、水田の小作契約の未更新などによる耕作放棄地の急激な増加が心配されます。

胆沢農民組合、江刺農民組合、衣川農民組合、前沢農民組合として水沢農民組合連名で提出されました「水田活用の直接支払交付金」の見直しの撤回を求める請願は、全会一致で採択され、意見書が送付されることになりました。



(仮称) 奥州西学校給食センター建設予定地
旧小山中学校(胆沢)

倉成市長の今後の市政運営の基本的考え方を質す



今野裕文議員は13日一般質問に登壇し、倉成淳市長に、

長に、トリプルスコアの結果になった市長選挙についての受け止めについて、また、市民の声とどう向き合うのかを質しました。さらに、苦難を抱える市民の生活を応援する市政であってほしいと考えるが、どのように考えているか尋ねました。

公約と方策を示し

不安感と閉塞感の打破を訴え支持されたと思う

倉成淳市長は「市民に寄り添う奥州市の実現」を公約し、その方策として『市民に寄り添う奥州会議プロジェクト』と『寄り添うデジタル改革』を掲げた。そして、奥州市民が抱える不安感、閉塞感を打破して

いくことを訴え多くの市民から支持をえたものと思う」と回答しました。

何が課題で、課題解決のための解決策を複数示して意見を聞きたい

市民の声とどう向き合うかについては、「いままでの広聴の仕組みに加え、幅広い年代、多様な主体から意見を聞くためワークショップなど新たに取り組みたい。緊急度と重要度の高いテーマについては、個別に市民説明会を開き、何が課題になっているのか、解決に向けてどのような選択肢があるのか、市の考えをしっかりと伝えたいうえで市民の意見を聴きたいと考えている」旨回答しました。

市の将来を築く施策にも手を抜くわけにはいかない

倉成市長は、「市長として市民の暮らしと命を守ることが何より重要であり、その責務を重く受け止めている」としたうえで、「一方で奥州市の未来につなぐことにも責任を感じている」と回答しました。そして、「市の将来を築くため」、必要な施策にも手を抜くわけにはいかないとして、「市長直轄プロジェクト」を立ち上げ、「地域医療の確立、地域特性に応じた拠点づくりとネットワーキング化、デジタル技術の活用による新しい地域づくり」に果敢に取り組んでいることを強調しました。このことが、市民の利便性を向上させ、生活水準の底上げをし、命を守る施策にもつながると考えていることを明らかにしました。

学校給食センター整備関連費用を削除する修正案提出！

6月14日、令和4年度一般会計補正予算(第3号)の審議が行われました。

3給食センターから2給食センターへ

今回の給食センター整備計画は、3センターの計画を見直し2センターにし、1日当たり2500食の提供だったものを4500食の給食を提供するセンターとして旧小山中学校(胆沢)跡地に整備するものです。

子供中心の計画を策定すべき

日本共産党議員団は、この間、議

員全員協議会において、学校給食法と食育基本法に基づき子供中心の給食施設を整備することを提起してきました。

具体的には食育が充分できる環境、食材の奥州市産の活用ができる方策、冷凍カット野菜を使用しなくても提供できる施設にすること、自校方式をやめる学校の配膳体制の整備などを求めています。教育委員会は「検討する」旨の回答を繰り返し具体策は示されませんでした。

修正動議は否決

今回の補正予算は、コロナ関連予算も含まれ、この間日本共産党団が申し入れた事項も予算化されていることから、学校給食センターに関連する予算の削除を求める修正案を提出しましたが否決されました。

その内容は、学校給食施設整備事業経費として計上された測量設計関係委託料など5883万7千円を削除することを求めるものです。